

[作品]

Case book -ファイバーアートインスタレーション- Fiber + Illustration

Case book - Fiber art installation - Fiber + Illustration

原木 せつ子 HARAKI, Setsuko

ファイバーアートインスタレーション（1999～2007）は、作品「気かんしえん」シリーズ（1991～1997 作 杉野女子大学紀要 vol.35 1998 掲載）を経て、造形素材に新たな展開をみることとなった。

『淡い、危ういほどの存在でありながら、ある確かさを内在する形』を求めて、ある時よりイメージの源泉を考えることとなる。イメージが先行するような活動とは異なり、思わざるか、浮遊するイメージの存在を、どのようにして捉えるかを探る。

孤の中の素材の引き出しから。

Case book vol.1.『平淡々』（wacoal ginza art space）1999

イラストレーション

或る一点からのストローク（a stroke）から始まる平面の妙味を探る。ペジェ曲線（コンピュータ機能）に端を発した完結した形・増殖・扇形による版画。

Case book vol.2.-Fiberart installation- (Sugino gakuen gallery U) 2001

ファイバーアートインスタレーション

-ファイバー+オブジェ-

自己の始元的空間を探るスペースに起因したインスタレーション。東海の竹林からの伐採から始まり、そのプロセスを重視した作品である。竹林の孟宗竹・真竹・破竹、杉・檜の樹枝・樹皮など素材に事欠かないほどある中で、孟宗竹のたおやかな樹肌、しっかりした真竹の色合い、緩やかな撓みをもつ杉の樹枝を選んだ。

紙素材のオブジェは、靱皮繊維で長さを持つ楮・短いが繊細な柔軟さと強さを合わせ持つ三椏を選んだ。それぞれに異なる空間をもつ直方体からなる作品である。

Case book vol.3. - a prickle - (wacoal ginza art space)2007

ファイバーアートインスタレーション

-ファイバー+イラストレーション-

[Case book vol.1.2.]のイメージとその過程を融合し、草木花の記録から、初めての植物群からもその造形の一端を探る作業を始めた一群の作品である。

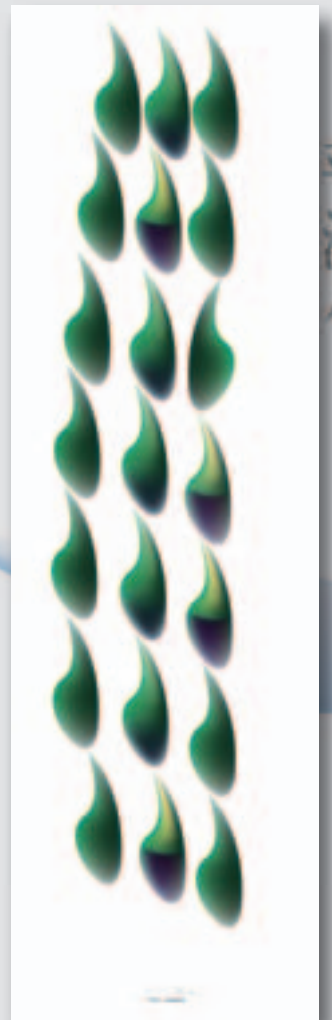
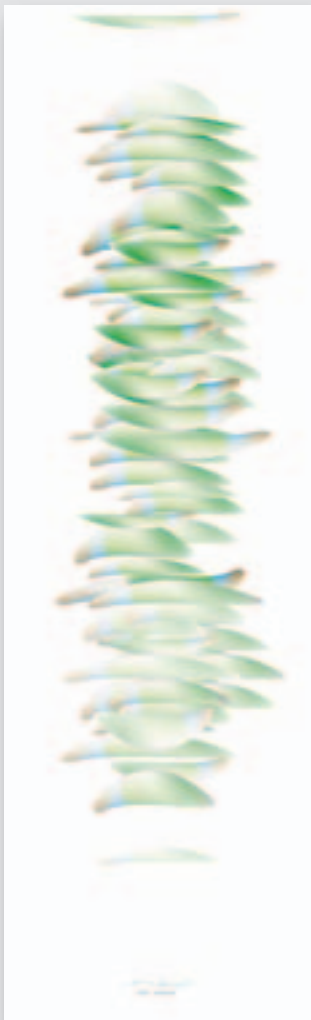
イラストレーションに於ける用紙にも必要な役割がある。線の繊細な変化を活かせるように、以前よりのアルシユ細挽きに対し、アルシユ粗挽きを用いた。紙の素材・製法や用途を問わず様々な紙質を試みた。線の明解度、色調の柔軟な載りは他にはないものであった。

篠竹・原毛によるインスタレーションは、篠竹の細身としなやかな張りに魅力を感じ、感覚を加速していった作品である。獣毛の羊毛に絹の光沢としなやかさが篠竹を被い構築物となり連立する。

そして光陰による深層空間を齎した。



Caseb



平
淡
々

原
木
せ
の
子
展

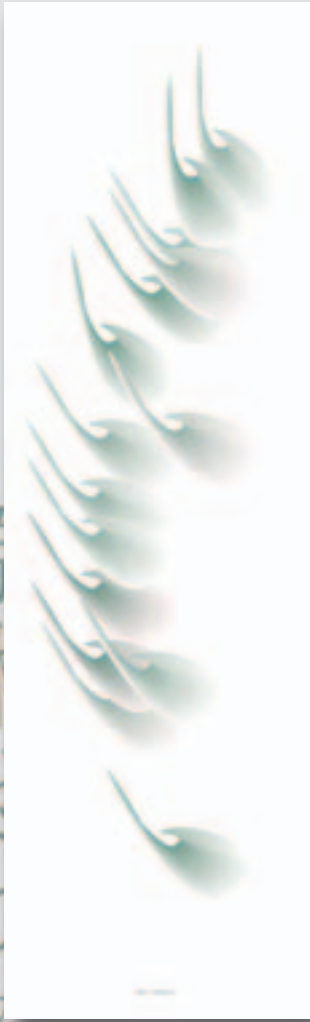
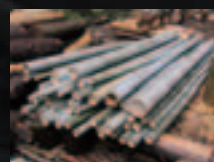
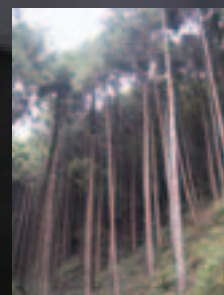
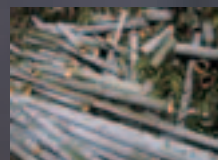
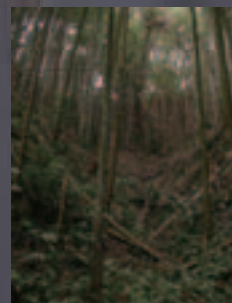
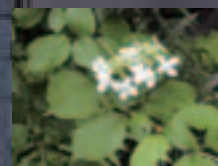




photo by HIKO Miyao



「棘」

棘の葉を削いだという、オブジェ = a prints - 48
そのオブジェは、そのオブジェ





「束」

糸の束形したという トク = a piece = 束
そのままの糸はをのびた



透
か
れ
る



束
形



は
や
ち



し
の
は



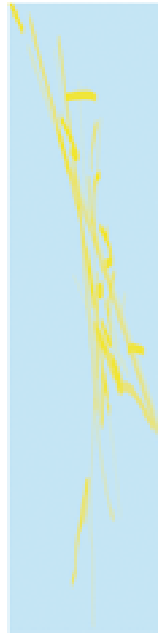
束
形



つべ



啓州



たかゆく



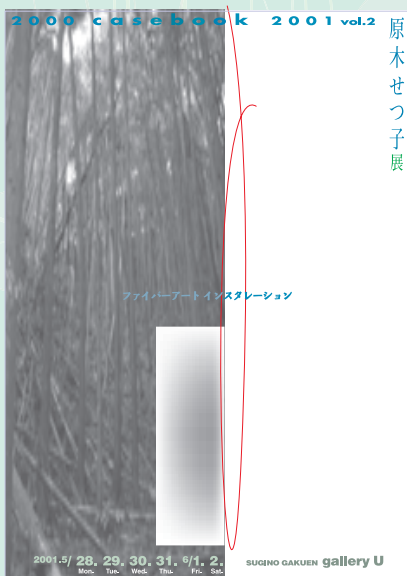
極く



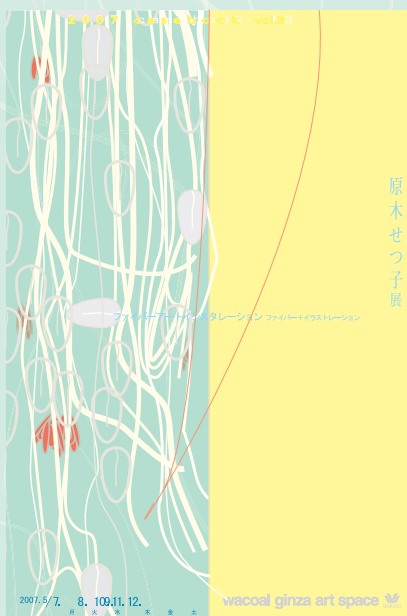
しかすが



case book vol.1 平淡々 1999. 11.22~27 wacoal ginza art space



case book vol.2 ファイバーアート インスタレーション 2001. 5.28~6.2 gallery U



case book vol.3 a prickle 2007. 5.7~12 wacoal ginza art space